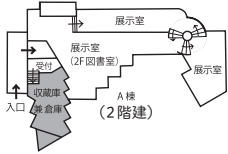


ちひろ美術館 建物の変遷

ちひろ美術館・東京

1977～



1977年 開館当時の入口

1977年1月、いわさきちひろの自宅の一角にいわさきちひろ絵本美術館（A棟）着工（設計・早川洋）。9月にいわさきちひろ絵本美術館が開館。2階建ての建物で、1階に展示室と受付、2階に図書室があった。

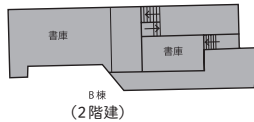
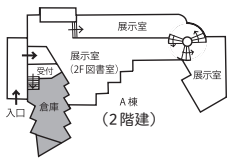


1977年 開館当時の外観



1977年 展示室

1981～



1981年1月、第1期増築工事（B棟）着工。別棟として収蔵庫と書庫ができる。バックヤードの拡張であったため、公にはしていなかった。

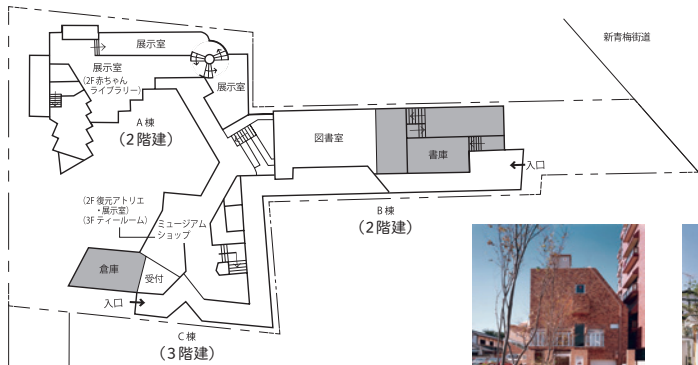


1981年 B棟外観



1981年 B棟2階の収蔵庫

1983～



1983年
新青梅街道側入口

1983年2月、第2期増築工事（C棟）着工。9月、新館オープン。非公開であったB棟もつなぎ、3つの棟からなる大きな建物となった。A棟1階には2つの展示室。2階には赤ちゃんライブラリー、B棟の半地下になった1階には図書室、2階には収蔵庫、新しくつくられたC棟には1階に受付とミュージアムショップ、2階にちひろの復元アトリエと展示室、3階にティールームがつけられた。1987年には、エントランスと前庭も増築。

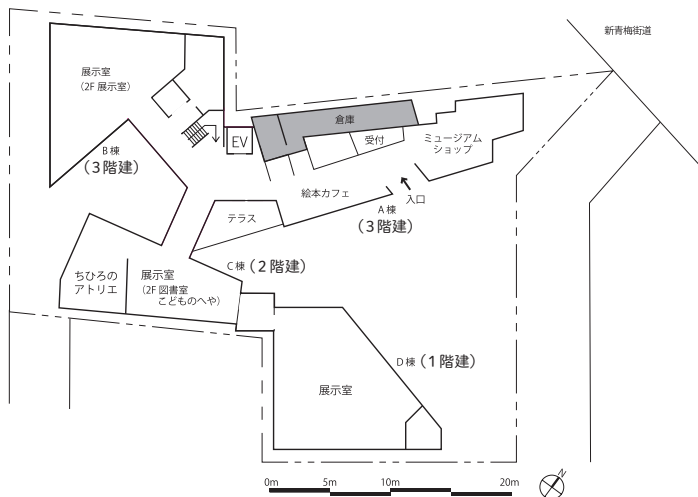


1987年 新エントランス



1987年 前庭

2002～



2001年1月、リニューアル工事のために一時閉館。9月に新ちひろ美術館・東京着工（設計・内藤廣）。2002年9月、開館25周年を記念して、新ちひろ美術館・東京が開館。以前の建物の迷路のような雰囲気を引き継ぎ、4つの棟をつないだ構成の建物となる。（敷地面積 1,154.51㎡／建築面積 551.04㎡）



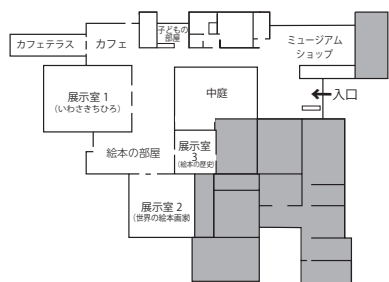
2002年 リニューアル後の外観



2002年 中庭

安曇野ちひろ美術館

1997～



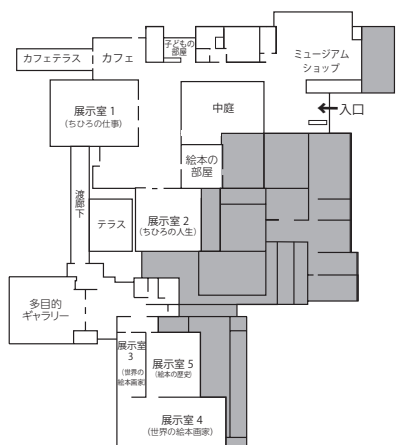
ちひろの作品を展示する展示室1



開館当初の安曇野館

1993年夏に行われたプロポーザルコンペで内藤廣が安曇野ちひろ美術館の設計を手がけることが決まった。村営の安曇野ちひろ公園(36,500㎡)の設計も同時に進められ、環境と建物の一体化が計られた。1997年4月、外観の大きさがもつとも抑えられる切妻の連続屋根を用いた美術館が完成した。建物の中心には中庭が据えられ、それを囲んでちひろと世界の絵本画家の展示室や、図書室、ミュージアムショップや絵本カフェなどのスペースが配置された。

2001～



絵本の歴史の展示室 5

予想を上回る来館者を迎え、2001年には新館を増築し、展示室が拡充された。本館には「ちひろの仕事」「ちひろの人生」、新館には「世界の絵本画家」「絵本の歴史」の展示室と「多目的ギャラリー」がつくられ、活動の幅が広がった。

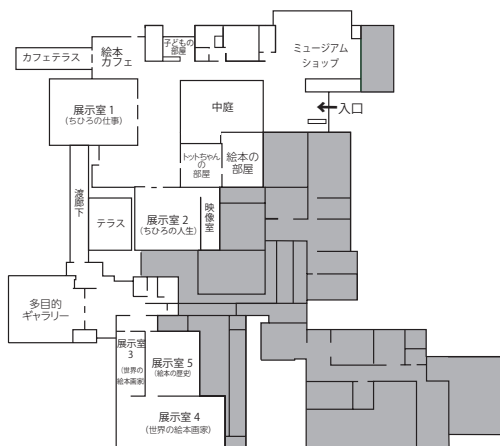


来館者のためのくつろぎスペース



自由に絵本を楽しむ絵本の部屋

2009～



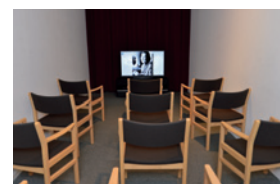
2009年、収蔵作品数が充実していきなで、収蔵庫と資料研究室等のある新収蔵棟を増築。これにより、当初1,580㎡だった建物が、3,200㎡に広がった。

2016～

トットちゃん広場に再現された「電車の教室」



2016年につくられた子どもの展示室(トットちゃんの部屋)



2016年に開設された映像室(トットちゃんの部屋)

2016年7月、安曇野ちひろ公園(松川村村営)北側エリアが拡充され、「食」「農」「いのち」を体験的に学べる53,500㎡の公園となる。新しいエリアには体験農園や『窓ぎわのトットちゃん』の世界を再現した「トットちゃん広場」が誕生した。